

本時のねらい

自分の好きな時間について、聞き手により伝わりやすくするための表現を考える。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

発表のスライドをパワーポイントで作ることでデジタルを活用したプレゼンテーション能力を育てる。
発表の様子を動画で撮影し、見返すことで自分の発表内容や発表の様子を客観的に見て、改善する。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC ・拡大用スクリーンとプロジェクタ ・ワード
・パワーポイント ・動画撮影用カメラ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○作った発表メモを基に班で発表の練習をする	・前時に作ったパワーポイント資料を見せながら発表することで、内容とスライドを対応させ、聞き手により伝えやすくしている。 ・聞き手が別のタブレットで発表者の様子を動画で撮り、後の練習の場面で発表の様子を見られるようにする。
展開 (25分)	○めあての確認 「自分の気持ちを表す言葉を進化させよう」 ○発表を工夫するためのポイントを伝える ○グループでは表現の工夫について話し合う	・教員がパワーポイントを使って説明することで、より工夫するためのポイントを伝えやすくする。 ・教科書の巻末の言葉の力のページを用いて、導入で撮影した動画を見ながら、気持ちを表す言葉の言い方を工夫する。動画で何度も話した言葉を確認できるので、工夫すべき部分に気付きやすくなる。
まとめ (10分)	○どんな表現の工夫をしたのか全体で交流する ○学習のふりかえりをする	・Wordを使って、児童から出た工夫された表現を打ち込み、プロジェクタに表示させる。板書するよりも素早く示すことができ、後でプリントとして配付しやすい。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：友だちにタブレットを使って発表練習している場面



写真2：より表現を豊かにするために、友だちの発表を撮影している場面



写真3：教科書の言葉あつめのページを見ながら発表内容をグループで話し合っている場面

児童生徒の反応や変容

・パワーポイントの資料作りは児童にとって初めは難しかったが、操作に慣れてくると資料の修正などを自分たちの力でできるようになってきた。
・スライドを使って発表をするので、紙を読むのではなく自分の言葉で、相手の目を見て話せるようになった。
・撮影した動画を見返すことで、発表内容だけでなく声の大きさや目線と言った自分の姿を見ることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・データの送受信やプレゼンテーション資料作成など越えるべきハードルは多いが、子どもたちのICT機器操作能力は確実に上がっていく。
・自分たちで「どうだった？」と話している動画を見て、より上手に発表するにはどうしたらいいか、意欲的に考えていた。